

【一般部門】優秀賞

■団体名 広島干潟生物研究会（広島県）

■企画名 浜辺のカニが語る温暖化

■目 的 ①スナガニ類の南方系種（3種）と在来種（1種）を正しく同定する能力を養う。

②現地調査を行いその結果をレポートとポスターにまとめ、学会で発表する。

③その過程を通して、科学的手法や考え方、プレゼンの技法などを身に付ける。

④温暖化に対して、地球人として何を考えどう行動すべきかを議論する契機とする。

■企画内容 瀬戸内海西部を中心とした未調査地で現地調査を行い、在来種と南方系種の割合を示し、サイズ測定により繁殖実態を推測し、レポートやポスターにまとめて発表する。

■実施期間 2025年4月～11月

■実施場所 広島、山口、島根、愛媛、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、高知、沖縄の砂浜海岸

■企画の特徴

①足元の事実を科学的手法で調べることで、環境に関する世界的規模の課題を見つけることができた。

②未調査であった各地のデータを綿密に得ることで、学会発表にまでつなげ、温暖化の具体例を提示できた。

③今後、定期的に定点調査を継続することで、温暖化の変動の様子を捉える可能性が示せた。

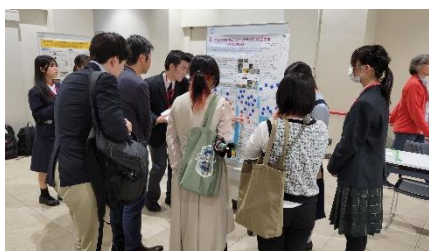
④児童・生徒が中心となって意欲的に進められることが分かり、この手法を全国に広げることが可能となった。



現地調査



同定・測定作業、議論、レポート作成



学会発表

